

## 書 評

ジェイムス・T・フォーセット著『心理学と人口』

James T. Fawcett, *Psychology and Population, Behavioral Research Issues in Fertility and Family Planning*, The Population Council, New York, 1970, vi+149pp.

本書は読んで字の如く『心理学と人口』と題して書かれたものであるが、149頁のもので、内容は4章からなっている。

すなわち、“An Overview of the Population Field” “Psychological Factors in Population Research” “Contexts for Future Research and Action” および “The Development of Psychology and Population” であるが、その前文に Julian Huxley の 1963年の人口問題に関する意見とも言うべきものを載せている。言わんとするところは、世界の人口状況は、このまま進むと未来に対して、増大しつつある悲惨さを宣告しているようなもので、より少ない資源を求めてより多くの競争に駆り立てるか、それとも、世界のケーキのより少ない一切れで各人は満足するかであるということである。

したがって今日我々は何もしないでいれば我々、子孫も含めて人類の未来はさらに苦悩に充ちてくる。つまり次の25年間で決定的時間となろうといった過剰人口への警告である。そして本書は Fertility というものを中心にして展開して行くが、この人口分析には Davis や Freedman, Thompson, Lewis, Devereaux, Lehfeldt, Hauser, Bogue などの研究結果が引用され、さらに、これと Freud 理論との対照が説かれてもいる。つまり最初の章は、人口過剰問題と人口調節問題との実状や理論に対して、心理学が参加すべき多くの問題点があることを指摘したもので、特に第2章においては Fertility survey に対する心理的な実態調査が紹介されている。勿論、social attitude やその他の振舞態度について、人口問題と無関係に行なわれている調査結果も、十分に役に立つことへの示唆を与えたとともに、心理調査について、特に attitude に関する調査で注意すべき反省も Stephan の報告を中心にして述べられていた。つまり、とかく心理学調査についての不確実要素に対する注意点としては、attitude は、流動的であること、また時点計画の偏重性、複合からみ合いの要因、またある行動が多くの動機の妥協産物であるかどうか、このために初期の態度を推論することへの注意、また心理調査はとかく大きな社会グループの影響を無視して個人とか夫婦の特徴に対して焦点をあて過ぎていることへの反省、また態度測定に対して方法論的に過重に依存していることや、真の測定単位についての検討などがあげられよう。

第3章において今後の研究活動に対する一つの指向的な示唆が、いろいろな図式によって体系化されているのが示されてもいる。これは環境、社会—経済的構造の関係から、さらに死亡率や家族の大きさ、および中間変数への基準、そして出生率との関係といったものの関係圏を Freedman が Davis や Blake の中間的変数因子をこなしして書いたものや、さらに Mishler や Westoff が示した出生率に影響を与える要因の関係図式、また Smith による振舞態度要因の関係図式も紹介されているが、こうした展望観図を常に参考しながら心理学的な inventory は合成されねばならないとしていることが示されている。

そして心理学的調査研究が人口問題に適用するための主なる主題を次の4点に要約していた。すなわち、① Adaptation of Psychological Assessment, ② Methods to Population Problems, ③ Immediate Application of Psychological Knowledge and Techniques, ④ Basic Studies to Meet Long-term Needs である。

最後の章は以上述べられたことに対する要約的な文で、“A Need for Programs and Commitments” として人口問題研究者は、こうした人間に密着した観点から Fertility について挑戦すべきであるということが告げられている。要するに人口資質問題研究にとって無視出来ない具体的な分野であるといつてよい。

(篠崎 信男)